

生物多様性に注目したCSR活動支援

水産研究部 内水面グループ

■CSR活動支援の概要

生物多様性に関する社内研修会
講師派遣

社有地内での活動支援

環境学習プログラムの提案

ビオトープを活用した地域在来の希少種保護

メリット

- ✓ 開発や外来種の影響を回避できる。
- ✓ 人の立ち入りなどの管理ができる。
- ✓ 社員の日常的な活動の場に行える。
- ✓ ビオトープを維持・管理する目的を明確化できる。

企業



支援内容

- ビオトープへの生きものの導入や管理方法
- 地域在来の生きものかどうかの調査
- 病気発生時や外来種侵入時の対応
- ビオトープでの環境学習の方法

支援



■企業への支援事例

パナソニック株式会社エコソリューションズ社

本社はんえいのひろば ビオトープ（門真市）

支援内容

- 地域（北河内地域の個体群）の希少種保護
魚類：カワバタモロコ、ミナミメダカ
植物：ミズアオイ
- 社員ボランティアによる
ビオトープの生物調査



カワバタモロコ
(大阪府絶滅危惧Ⅰ類)



ミナミメダカ
(大阪府絶滅危惧Ⅱ類)

パナホーム株式会社

本社つながりのひろば ビオトープ（豊中市）

支援内容

- 地域（北摂地域の個体群）の希少種保護
魚類：ミナミメダカ
今年度カワバタモロコの導入予定
- 近隣小学校と連携した
環境学習プログラムの提案



ミズアオイ
(大阪府絶滅危惧Ⅰ類)

上記2社は大阪府や当研究所等と“おおさか生物多様性パートナー協定”を締結しています。

この協定は大阪府が平成25年に創設した制度です。生物多様性保全活動に取り組む企業を大阪府及び専門機関等が連携して支援することで、企業の生物多様性保全活動を促進し、企業価値の向上を図ることを目的としています。当研究所はビオトープの管理や希少種保護、環境学習などで研究成果を活用した学術・技術的な支援を行っています。

生物多様性に注目したCSR活動支援

○山本義彦・上原一彦（水産研究部）

1. 目的

生物多様性国家戦略 2012-2020（2012）では、生物多様性の主流化や、企業や行政、市民など多様な主体による取組の推進が求められている。また、大阪府の大阪 21 世紀の新環境総合計画（2011）でも民間事業者による生物多様性の取り組みを促進していくことが明記されており、企業の取組の発展が期待されている。

このため、生物多様性に注目したCSR（企業の社会的責任活動）を大阪府内で促進することを目的に、パナソニック株式会社エコソリューションズ社（パナES社）とパナホーム株式会社（PH社）が実施するCSR活動を技術的に支援した。

2. 方法

(1) パナソニック株式会社エコソリューションズ社（パナES社）（門真市）

ビオトープの設置や敷地内にチョウの食草を植えるなど、これまでも、地域の生物多様性保全に積極的に取り組んでいる。

当研究所は、平成 24 年 6 月に北河内地域のカワバタモロコ（大阪府絶滅危惧Ⅰ類）、ミズアオイ（大阪府絶滅危惧Ⅰ類）を、平成 25 年 4 月にミナミメダカ（大阪府絶滅危惧Ⅱ類）を導入した。

(2) パナホーム株式会社（PH社）（豊中市）

当研究所は平成 25 年 4 月に新設されたビオトープに北摂地域のミナミメダカ（大阪府絶滅危惧Ⅱ類）を導入した。

(3) 導入種の選定と支援内容

導入種についてはビオトープの環境に適した種を選定し、生息地に最も近いと考えられる個体群を導入した。

導入後の支援としては、ビオトープ管理のアドバイスをはじめ、導入種の生息状況や増殖状況の確認や管理アドバイスを行っている。

パナES社では社員ボランティアに調査方法を指導し、増殖したカワバタモロコの個体数推定を行った。

3. 結果および考察

(1) 結果

2社とも導入時にマスコミで活動が取り上げられ、企業のイメージアップや生物多様性の保全の重要性を地域に伝えていくことができた。

また、大阪府は平成 25 年に企業の生物多様性保全の取組を大阪府や専門機関、市町村、NPO等と連携して支援する“おおさか生物多様性パートナー協定”を制度化した。

この2社は、大阪府との協定締結の1番目、2番目となる企業で、平成 26 年 3 月には、南海電気鉄道株式会社がこれに続くなど、生物多様性に注目したCSR活動に弾みがつくことが期待される。

(2) 今後に向けた考察

生物多様性に関するCSR活動として、社有地内にあるビオトープを活用した取り組みは全国的にいくつかの事例がある。しかし、地域の生物多様性を守るためには、各地域の特色を生かした取り組みを進める必要があり、企業は行政や研究機関など地域との連携を求めている。特に希少種を扱う際には、地域在来であるかどうかの確認や病気の発生時、外来種の侵入時などの対応に、地域の情報や知見を集積している研究機関の果たす役割は大きい。

当研究所では生物多様性に関する研究を進めるとともに、研究成果を活用して、生物多様性に注目したCSR活動の支援を引き続き行っていく。